

一般廃棄物中間処理施設に関する覚書

中央広域環境施設組合（以下「甲」という。）と吉野町・土成町（以下「乙」という。）の間において、甲が吉野町西條字藤原及び土成町宮川内字古田の町境に一般廃棄物中間処理施設（以下「施設」という。）を建設することに関し、次のとおり覚書を締結する。

（基本事項）

第1条 甲は、公害関係諸法令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律を遵守し、地域住民の健康を保護すると共に生活環境の保全を図り、施設の管理運営に万全の措置を講ずるものとする。

（稼動期間）

第2条 施設の稼動期間については、正式稼動年度より20年間とし延長は認めない。なお、20年後には乙以外の町村へ施設を移転するものとする。

（公害防止及び補償）

第3条 甲は、施設の運営にあたり公害関連諸法令に定める排出基準を遵守し、周辺地域の生活環境や農作物（風評被害も含む）に影響を及ぼさないようにするものとする。

2 甲は、前項に定める基準を超え、又は超える恐れがある場合は直ちに施設の運転を停止するとともに、すみやかに乙に届け出るものとし、点検修理等を行ない安全が確認された後でなければ運転を再開しないものとする。

3 甲は、施設運営に起因する公害等により地域住民に被害（人体・農作物・家畜等）及び、風評等の被害を与えたときは次の措置を講ずるものとする。

(1) 直ちにその排除に努める等適切な措置を講ずる。

(2) 住民に対する被害（人体・農作物・家畜等及び風評等の被害）については、甲の責任において誠意を持って万全の補償を行なうものとする。

（立入検査等）

第4条 甲は、当該施設及び周辺地域の環境調査（大気・水質・土壌及びその他甲、乙が必要と定めるもの）を定期的を実施するものとし、施設内において公表することができる。

2 乙は、公害防止のため必要があると認めるときは、施設内に立ち入り調査することができるものとし、甲はこれに協力するものとする。

3 前項の立ち入り調査の際、地域住民から申し出があり、甲又は乙が必要と認めたときは、地域住民が同行することができるものとする。

（周辺の交通安全）

第5条 甲は、車両の出入りに伴う交通安全に最大の注意を払うと共に、地域住民の交通を優先させるものとする。

2 甲は、施設への搬入に伴う車両の通行に関し、乙と協議を行ない、前もってルートを定め実施するものとする。

(職員の雇用)

第6条 甲は、職員等の雇用については地元を優先するものとする。

(施設管理運営)

第7条 甲は、施設の管理運営について地元住民の代表者を毎年1回は、甲が開催する運営委員会(仮称)に委員として参加させるものとする。

(周辺住民との協議)

第8条 甲は、施設を施工するにあたり周辺住民と環境保全、管理運営等について、別に協議するものとする。

(工事中の安全対策)

第9条 甲は、施設を施工するに伴い、乙と別に安全対策等の協議を行なうものとする。

(定めのない事項)

第10条 前条までに定めのない事項については、法令に定めるところによるものとし、その他事項については甲、乙協議において処理するものとする。

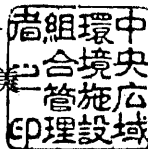
上記の条項の成立を証するため、この覚書3通を作成し甲、乙それぞれ1通を所持するものとする。

平成15年 8月 1日

(甲) 徳島県麻植郡川島町大字桑村字新池尻607-23

中央広域環境施設組合

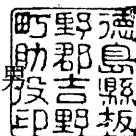
管理者 竹重敦美



(乙) 徳島県板野郡吉野町西條字大西60-1

吉野町長 竹重敦美

代理 吉野町助役 稲井芳男



徳島県板野郡土成町大字土成字丸山1-1

土成町長 板東



中央広域環境センターの運転管理及び公害防止に関する覚書

中央広域環境施設組合（以下「甲」という。）と吉野町・土成町（以下「乙」という。）の間において、甲が吉野町西條字藤原及び土成町宮川内字古田の町境に中央広域環境センター（以下「センター」という。）を設置し、同センターを操業することに関し次のとおり覚書を締結する。

（基本事項）

第1条 甲は、公害関係諸法令及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律を遵守し、地域住民の健康を保護すると共に生活環境の保全を図り、センターの管理運営に万全の措置を講ずるものとする。

（調 査）

第2条 甲は、当該センター及び周辺地域の環境調査を次のとおり定期的を実施するものとし、排ガス測定、周辺環境測定については、公的に認可を受けた第三者機関又は業者に委託するものとする。また、JFEと関係のある会社、団体には委託を行わないものとする。調査結果はセンター内において公表するものとする。また、報道機関（CATV等）を利用し周知するものとする。

1) 大気（排ガス）については、煙突等（ガスエンジン2本・ガス焚きボイラ1本・放散塔1本）により調査を年4回以上行うものとする。

調査項目：硫黄酸化物、ばいじん、塩化水素、窒素酸化物、
酸素濃度、ダイオキシン類等

2) 土壌については、風向きにより排ガスが降下する事が予測される周辺及びセンター内の土壌について調査を年1回以上行うものとする。

調査項目：ダイオキシン類

3) 水質については、周辺地域の地下水の水質について調査を年2回以上行うものとする。

調査項目：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、
PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、ダイオキシン類等

（環境基準）

第3条 センター運営に伴う環境基準については、次のとおり遵守する。

1) 排ガス基準値

- | | |
|----------|--|
| ①ばいじん量 | 0.01g/Nm ³ 以下(Dry)O ₂ 12%換算 |
| ②硫黄酸化物 | 20 ppm以下(Dry)O ₂ 12%換算 |
| ③塩化水素 | 20 ppm以下(Dry)O ₂ 12%換算 |
| ④窒素酸化物 | 50 ppm以下(Dry)O ₂ 12%換算 |
| ⑤ダイオキシン類 | 0.01ng-TEQ/Nm ³ 以下(Dry)O ₂ 12%換算 |
| ⑥その他 | 白煙防止：外気温度5℃以上、外気湿度50%以下において煙突から白煙が観察されなくなるまで精製ガスを除湿する。 |

2) 排水

- ① プラント系排水 排水処理後再利用
- ② 生活系排水 合併浄化槽にて処理後再利用
- ③ ごみ汚水 蒸発酸化処理（炉内注入）
- ④ 雨水 敷地外に排水

3) 騒音基準値（敷地境界線上）

- ① 朝（ 6 : 0 0 ~ 8 : 0 0 ） 5 0 デシベル以下
- ② 昼間（ 8 : 0 0 ~ 1 8 : 0 0 ） 5 5 デシベル以下
- ③ 夕（ 1 8 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0 ） 5 0 デシベル以下
- ④ 夜間（ 2 1 : 0 0 ~ 6 : 0 0 ） 4 5 デシベル以下

4) 振動基準値（敷地境界線上）

- ① 昼間（ 6 : 0 0 ~ 2 1 : 0 0 ） 6 0 デシベル以下
- ② 夜間（ 2 1 : 0 0 ~ 6 : 0 0 ） 5 5 デシベル以下

5) 悪臭基準（敷地境界線上、単位：ppm以下）

| | | | |
|---------------|--------|-------------|-------|
| ・アンモニア | 1.0 | ・メチルメルカプタン | 0.002 |
| ・硫化水素 | 0.02 | ・硫化メチル | 0.01 |
| ・二硫化メチル | 0.009 | ・トリメチルアミン | 0.005 |
| ・アセトアルデヒド | 0.05 | ・プロピオンアルデヒド | 0.05 |
| ・ノルマルブチルアルデヒド | 0.009 | ・イソブチルアルデヒド | 0.02 |
| ・ノルマルバレルアルデヒド | 0.009 | ・イソバレルアルデヒド | 0.003 |
| ・イソブタノール | 0.9 | ・酢酸エチル | 3.0 |
| ・メチルイソブチルケトン | 1.0 | ・トルエン | 10 |
| ・スチレン | 0.4 | ・キシレン | 1.0 |
| ・プロピオン酸 | 0.03 | ・ノルマル酪酸 | 0.001 |
| ・ノルマル吉草酸 | 0.0009 | ・イソ吉草酸 | 0.001 |

6) 溶融スラグの溶出基準（単位：mg/％）

| | | | |
|------------------|--------------|------|--------|
| ・カドミウム | 0.01 | ・砒素 | 0.01 |
| ・鉛 | 0.01 | ・総水銀 | 0.0005 |
| ・六価クロム | 0.05 | ・セレン | 0.01 |
| ・ダイオキシン類の含有量の基準値 | 3.0 ng-TEQ/g | | |

（運転管理値）

第4条 前条の排ガス基準値については、さらにその上に運転管理上の目標を定め、常に超えないようにし、もしこの値を超えても直ちに下げるように努力するための運転管理値を次のとおり定めるものとする。また、常時センター内で表示するものとする。

- ① 硫黄酸化物 15 ppm 以下(Dry)O₂ 12% 換算
- ② 塩化水素 15 ppm 以下(Dry)O₂ 12% 換算
- ③ 窒素酸化物 35 ppm 以下(Dry)O₂ 12% 換算
- ④ ダイオキシン類 0.005ng-TEQ/Nm³ 以下(Dry)O₂ 12% 換算

なお運転に際し、排ガス数値を可能な限り低く抑えるように常に努力するものとする。

(搬入・搬出ルート)

第5条 搬入・搬出ルートについては、地域住民の通行を優先とし、別紙図面のとおりに定める。

(処理対象廃棄物)

第6条 センターにおいて処理する廃棄物は、甲に加入している市町の行政区域内で排出される一般廃棄物のうち「可燃ごみ」、「不燃ごみ」、「粗大ごみ」とし、1日最大処理量120トンとする。

(搬入日、時間及び処理)

第7条 廃棄物の搬入日は、月曜日から土曜日までの週6日間(祝祭日も搬入する。)とし、1月1日から1月3日までの間は基本的にごみの受け入れをしないものとする。

2 搬入時間は午前8時30分より午後4時30分までとする。

3 焼却処理については、可能な限り24時間連続運転するものとする。

(緊急対策)

第8条 緊急対策マニュアルをセンターの稼動までに作成し、非常時に備える。

2 通報・連絡方法等については、マニュアルに定める。

(公害審査委員会)

第9条 管理者は、公害の防止に関する事項を調査審議させるための公害審査委員会を設置するものとする。

(環境保全及び環境美化)

第10条 敷地境界及び敷地内には、できる限りの種々の喬木、灌木を配置した植栽を行いセンター内の緑化に努めるものとする。

2 雨水(洪水)対策は万全を期するものとする。

(定めのない事項)

第11条 前条までに定めのない事項については、法令に定めるところによるものとし、その他事項については、甲、乙協議において処理するものとする。

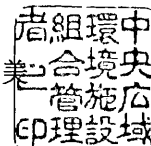
上記覚書締結の証としてこの覚書3通を作成し、甲、乙それぞれ1通を保有する。

平成17年 3 月 3 / 日

甲 徳島県吉野川市川島町桑村607-23

中央広域環境施設組合

管理者 竹重 敦美



乙

徳島県板野郡吉野町西条大字西60-1

吉野町長 竹重 敦美

代理 吉野町助役 稲井 芳



乙

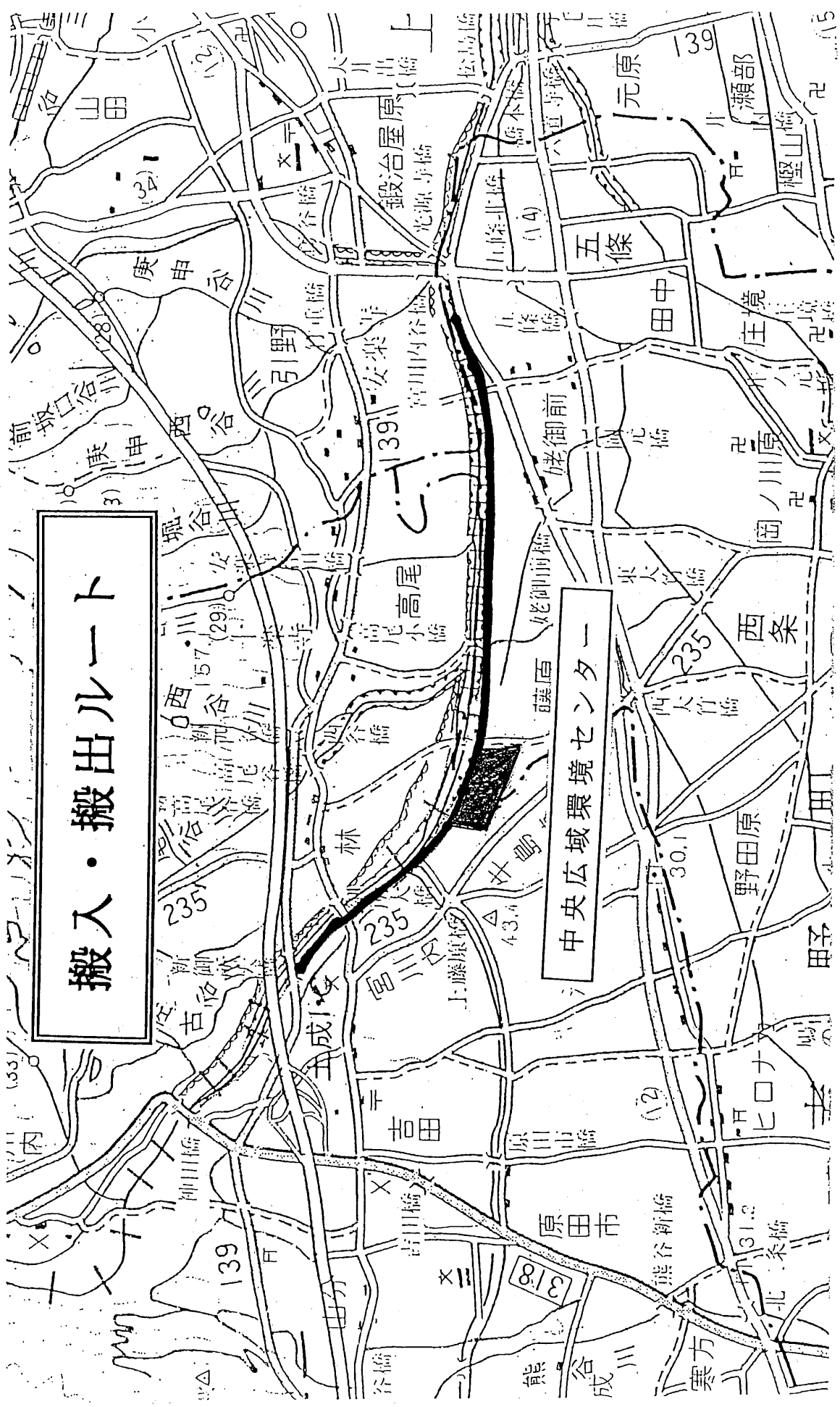
徳島県板野郡土成町大字土成字丸山1番地ノ1

土成町長

板東 正



搬入・搬出ルート



中央広域環境センター

搬入・搬出ルート